

メディア・リテラシー評価尺度得点から見た事前事後の変化

本研究では、授業実践の効果を検証するために、本研究プロジェクトでは、メディア・リテラシー評価尺度小学校高学年用調査用紙（表3.1）を開発した。開発に当たっては、中橋（2003）が提唱した、メディア・リテラシーの6構成要素（A：メディアを使いこなす、B：メディアを理解する、C：メディアの読解、解釈、鑑賞、D：メディアを批判的に捉える、E：考えをメディアで表現、F：メディアでの対話とコミュニケーション）を援用して、佐藤（2005）が開発した「大人用のメディア・リテラシー評価尺度調査用紙」を基にして、小学校高学年児童の通常の具体的活動を踏まえるとともに、各項目が理解できるように表現を改良するという視点で、本研究のプロジェクトメンバーである情報教育分野の大学院生の協議によって開発した。

開発した調査用紙を用いて、5年生全員を対象に行われた、総合的な学習の時間「ニュース番組をつくろう」（20時間扱い）の授業実践の事前（1月16日）、事後（3月13日）に、1組（29名）、2組（28名）、3組（25名）を対象に調査を行った。

その内、事前と事後で対応の付くデータ、1組（23名）、2組（26名）、3組（24名）について、A：メディアを使いこなす、B：メディアを理解する、C：メディアの読解、解釈、鑑賞、D：メディアを批判的に捉える、E：考えをメディアで表現、F：メディアでの対話とコミュニケーションの6つの構成要素毎に、個人内の得点の伸びを調べた。

その結果を図3.1、図3.2、図3.3に示す。また、変化の状況を概観するために、構成要素毎に、得点が上がっている児童と下がっている児童の人数をまとめたのが、表3.2である。

1組、2組、3組では多少の違いがあるものの、事前より事後の方が、得点が下がっている児童が多い。その理由としては、次のようなことが考えられる。

- ①1つ1つの項目の意味を、すべての児童が十分に理解できていなかったのではないかと考える。
- ②意味を理解していたとしても、自分自身にどの程度あてはまるかどうかを判断することが難しかったのではないかと考える。

それゆえ、授業実践をする前の時点では、自分に当てはまるという肯定的な判断の方が強く、得点が高くでたのではないかと考える。それに対して、授業後では、実際にさまざまな活動に取り組んだことや、この質問紙の項目を目にするのが2度目であることが働いて、否定的に判断することもあったのではないかと考える。

今後、このような方法で、児童一人ひとりに、自分自身を振り返らせる調査方法については、協力校の研究メンバーのみなさんとともに、どのように行ったらよいかを、十分に検討した上で、児童の成長を把握するために、継続的・定期的実施していくことが課題として残された。

表3. 1メディア・リテラシー評価尺度小学校高学年用調査用紙

0-1	デジタルビデオカメラを操作して撮影ができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-2	音楽再生録音ソフトで、CDから録音できる。	*	△	1	2	3	4	5
0-3	インターネットをするときには、ほしい情報をすぐ見つけることができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-4	デジタルカメラを操作して、撮影できる。	*	△	1	2	3	4	5
0-5	ICレコーダを操作して、録音することができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-6	デジタルカメラとデジタルビデオカメラの機能を説明でき、目的に応じて使い分けることができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-7	デジタルビデオカメラの映像をテレビで映してみるができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-8	デジタルカメラで撮影した画像をパソコンで加工することができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-9	デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに保存することができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-10	スキャナを利用して、画像をパソコンに取り込むことができる。	*	△	1	2	3	4	5
0-11	デジタルビデオカメラと映像編集ソフトを組み合わせて映像制作をすることができる。	*	△	1	2	3	4	5
1	テレビは、世の中であった出来事をすべて放送していると思う。	*	△	1	2	3	4	5
2	テレビをみながら、次はどうなっていくか予想するほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
3	ドラマと同じことが現実の世界でも実際に起こっていると思う。	*	△	1	2	3	4	5
4	映像は見ればわかるから、ビデオカメラで自由に取ればいいと思う。	*	△	1	2	3	4	5
5	人前で発表するときは、説明することを整理して発表できる。	*	△	1	2	3	4	5
6	テレビの情報は、すべて本当のことだと思う。	*	△	1	2	3	4	5
7	番組を見た後であらすじを順番に話すことができる。	*	△	1	2	3	4	5
8	テレビで見たことを、そのままマネしてしまう。	*	△	1	2	3	4	5
9	映像は、相手に自分の考え方を伝えるためには、工夫して撮影するべきだと思う。	*	△	1	2	3	4	5
10	インターネット上の掲示板では、相手の気持ちを考えて書き込みをすることができる。	*	△	1	2	3	4	5
11	映像の組み合わせ方次第では、本当とは違う情報を作ることでも可能だと思う。	*	△	1	2	3	4	5
12	テレビ番組を見た後には、人それぞれ感じることは違うと思う。	*	△	1	2	3	4	5
13	テレビは、世の中で起きている悪いことを少なくしようと努力していると思う。	*	△	1	2	3	4	5
14	映像の作り方は放送局で仕事をする人だけが学ぶのではなく私たちも知っているべきだと思う。	*	△	1	2	3	4	5
15	ビデオは映像なので、誰が見ても同じ見方になると思う。	*	△	1	2	3	4	5
16	テレビの音楽やナレーションや効果音は大切だと思う。	*	△	1	2	3	4	5
17	テレビ番組を見た後で、大事な場面がどこだったか説明できる。	*	△	1	2	3	4	5
18	自分とは別の意見であっても、理解しようと努力することができる。	*	△	1	2	3	4	5
19	グループ活動では、他の人の考えを聞くよりも自分の考えばかり発表するのが好きだ。	*	△	1	2	3	4	5
20	ビデオ番組を作るときには、誰が見てもわかるようにつくるほうがいいと思う。	*	△	1	2	3	4	5
21	カメラで人を撮影するとき、人の大きさや角度など気にしたほうがよいと思う。	*	△	1	2	3	4	5

22	ニュースを見ながら本当にあった出来事とテレビに出ている人が言っている意見を分けて聞くことができる。	*	△	1	2	3	4	5
23	意見がたくさんあっても、うまくまとめることができる。	*	△	1	2	3	4	5
24	自分の意見よりも、他の人の意見に流されてしまうほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
25	電話を使って話をするのと、向き合って話をするのでは全く違うものだと思う。	*	△	1	2	3	4	5
26	ある商品のコマーシャルを見ても、自分にとって必要かどうか考えてから買うほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
27	「いつ」「どこで」「だれが」「なにを」「どのように」行ったことかを気にしながらニュース番組を見ているほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
28	手に入れた情報が古くなっていないかどうか注意する方だ。	*	△	1	2	3	4	5
29	自分の好き嫌いで、物事を決めてしまう方だ。	*	△	1	2	3	4	5
30	友人に何かを言われてムッときても、冷静に考えてから言い返すほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
31	多くの情報から、共通点を見つけ出すのが苦手だ。	*	△	1	2	3	4	5
32	テレビで知ったことを疑問に思ったら、新聞やインターネットで確かめるほうである。	*	△	1	2	3	4	5
33	自分の考えとは違っても、正しいと思うことは正しいとみとめることができる。	*	△	1	2	3	4	5
34	新しいことにチャレンジするのが好きだ。	*	△	1	2	3	4	5
35	友達の発表の良いところを見つけることが得意だ。	*	△	1	2	3	4	5
36	新聞やテレビのニュースをあまり見ないほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
37	テレビで見たことが本当に正しいかどうかについて、あまり考えないほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
38	テレビに出演しているコメンテーターの話が本当かどうかあまり考えないほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
39	新しいものを作ることが好きだ。	*	△	1	2	3	4	5
40	友達の発表のよいところを見つけたら、自分の発表にも取り入れるようにしている。	*	△	1	2	3	4	5
41	テレビは私たちの生活にあまり影響を与えていないと思う。	*	△	1	2	3	4	5
42	おもしろければどんなテレビ番組でも作ってよいと思う。	*	△	1	2	3	4	5
43	人の噂は信じてしまうほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
44	自分なりの考えをもつようにしているほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
45	友人からのアドバイスには、耳を傾けられるほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
46	テレビのニュースは事実をすべてありのままに伝えていると思う。	*	△	1	2	3	4	5
47	何かを作るときは、他の人とは違うものを作ろうと、がんばるほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
48	友人がよい方向へ向かうようにアドバイスができるほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
49	テレビは平等にすべての人の意見を放送していると思う。	*	△	1	2	3	4	5
50	様々な立場の人のことを考えることができる。	*	△	1	2	3	4	5
51	うわさを聞いたときは、それがどのくらい理由があるのかを確認するほうだ。	*	△	1	2	3	4	5
52	良い面と悪い面の、両方から物事を見ることができる。	*	△	1	2	3	4	5

注：

5：当てはまる　　4：少し当てはまる　　3：どちらともいえない　　2：少し当てはまらない　　1：当てはまらない　　△：質問の意味がわからない　　*：経験がない

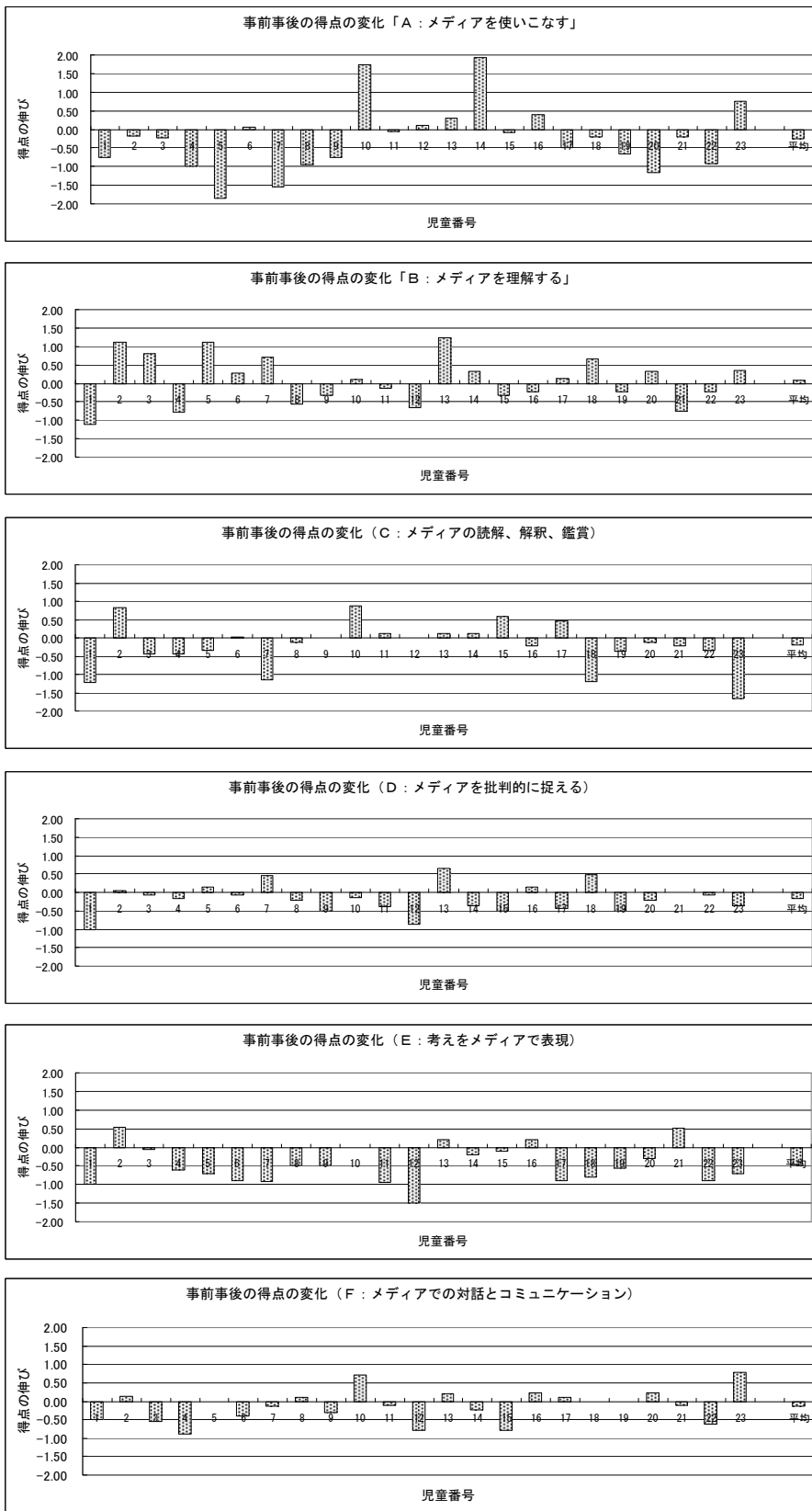


図3. 1 メディア・リテラシー評価尺度得点から見た事前事後の変化（1組）

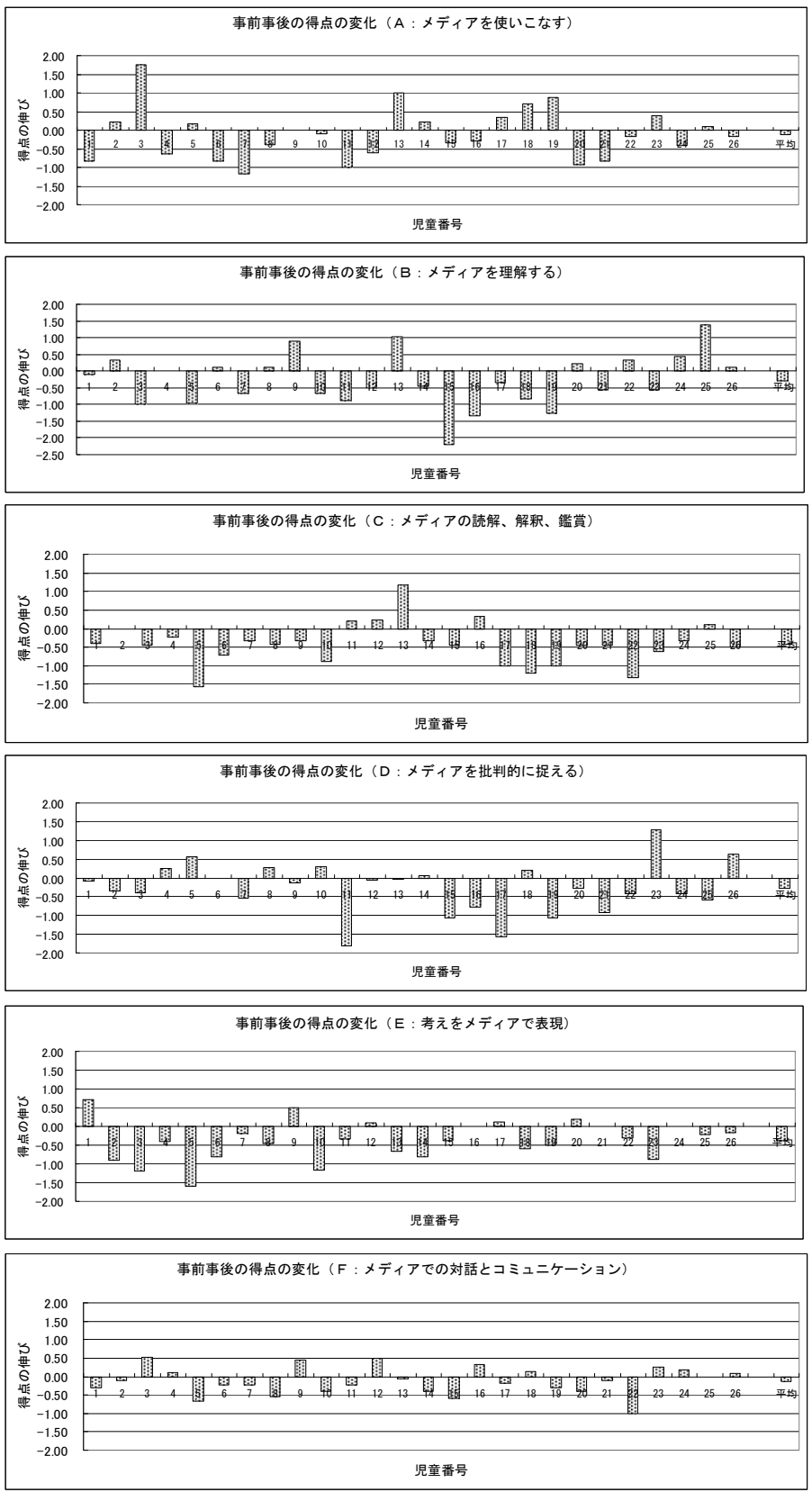


図3. 2 メディア・リテラシー評価尺度得点から見た事前事後の変化 (2組)

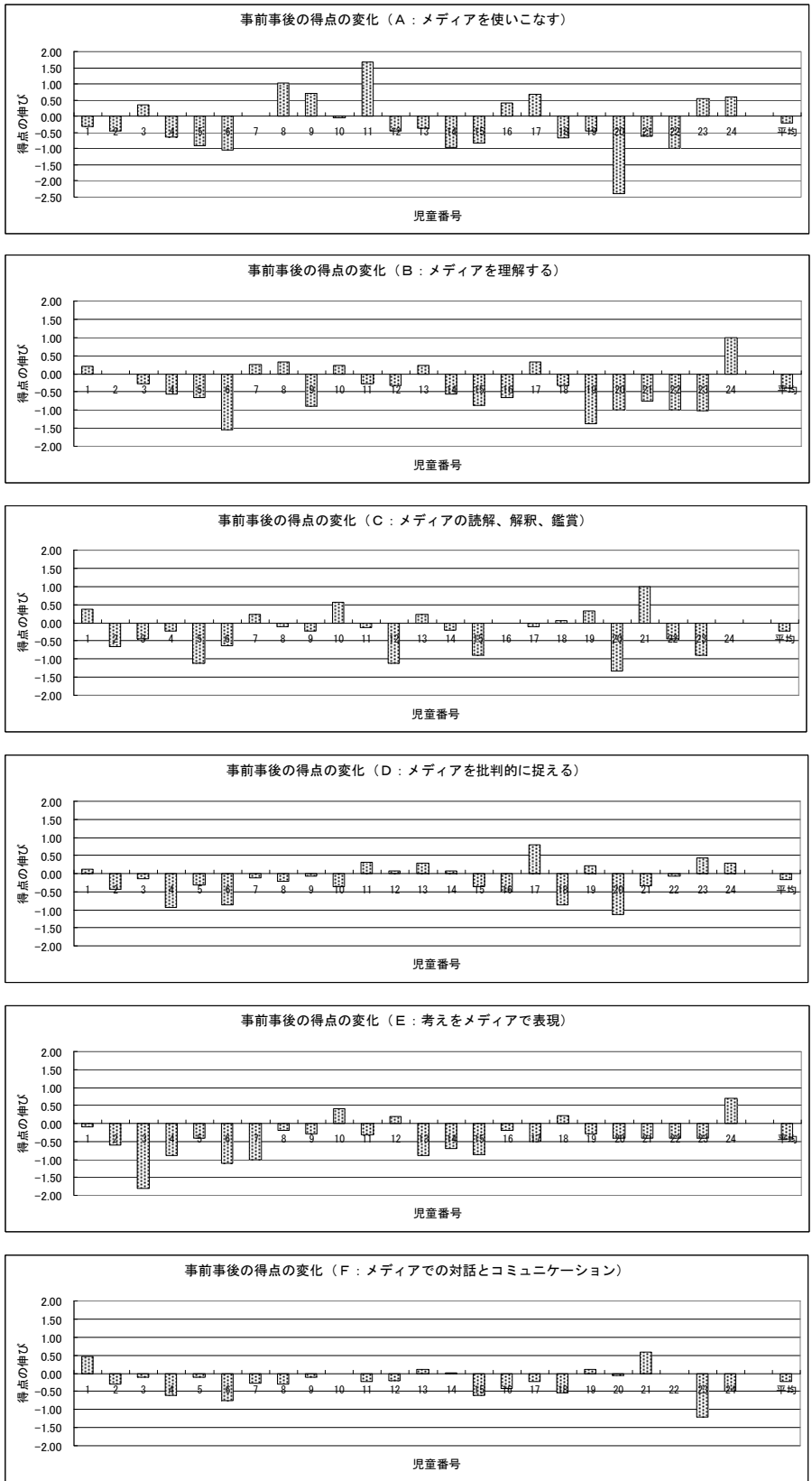


図 3. 3 メディア・リテラシー評価尺度得点から見た事前事後の変化 (3組)

表3. 2 メディア・リテラシー評価尺度得点の変化の状況

構成要素 / 変化	1組 (23名)			2組 (26名)			3組 (24名)		
	+	0	-	+	0	-	+	0	-
A:メディアを使いこなす	7	0	16	10	1	15	8	1	15
B:メディアを理解する	12	0	11	10	1	15	7	1	16
C:メディアの読解、解釈、鑑賞	9	1	13	5	1	20	7	2	15
D:メディアを批判的に捉える	6	1	16	8	1	17	9	0	15
E:考えをメディアで表現	3	1	19	5	3	18	4	0	20
F:メディアでの対話とコミュニケーション	7	2	14	9	1	16	5	2	17

※+: 上がる、-: 下がる、0: 変化なし

5 学年の学級担任の目から見た児童のメディア・リテラシーの定着状況

5年生の総合的な学習の時間「ニュース番組をつくろう」の授業実践を通して、メディア・リテラシーの各構成要素毎の能力がどの程度身に付いたかについて、担任教師より聞き取り調査した。その結果をまとめたものを次に示す。

(1) メディアを使いこなす能力

ビデオカメラの基本操作は初めてだったが、回を重ねるごとに上達した。撮影、再生、テレビとの接続は経験値が大きくなるほどより早く正確に操作ができるようになる児童が多くなった。ただし、班の中での役割分担ができており、触らない児童もいたようだ。

コンピュータの基本操作はほとんどの児童が可能であり、中学・高校生用プレゼンテーションソフトで自分の考えをまとめたり発表したり、インターネットでの調べ学習も検索サイトを用いてたくさんの情報を集めたりすることができる。ビデオ編集ソフトは、初めて使う道具であるが、一度教えていただいたので基本的な事はできる。ただし、班のなかでコンピュータを得意とする児童が中心となる場合が多い。

(2) メディアの特性理解の能力

小学生は特性を十分理解する段階ではない。初めて使った者に関してそれらの利点が何となく分かった児童がいる程度。様々なメディアを使うことでメディアに対する苦手意識を払拭し、どんなことに使えるかを考えられる段階である。

(3) メディアで表現された情報を読解・解釈する能力

経験の多いテレビ・ラジオからの情報については正しいと判断することが多いと考えられる。インターネットを授業の中で使ってきたが、たくさんのページから正しい情報を比較判断できるように期待しているが、そのリテラシーは備わりつつある。

(4) メディアから送られてくる情報を批判的に捉える能力

この授業を通しての変容はわからない。

(5) 自分の考えをメディアで表現する能力

今回初めてビデオを用いての表現活動を行った。この経験が今後役に立つと思われる。ビデオで映像を映すこと。編集する事の特徴に触れることができたようだ。しかし、映像として見たときにお互い見やすさを考えたり、修正したりする時間が足りなかった。必要な部分である。

(6) 相手を意識してコミュニケーションする能力。

「誰に、何を」伝えるかについては授業を通して思考段階では身に付いてきている。しかし、表現されたもの（造った映像）がそれらを満たしているかどうかを判断し、修正するまでのリテラシーはまだ身に付いていない。（制限された時間内での授業であるため今回の授業だけではまだ到達できない段階である）

班のなかに、外部の団体（民間の会社、市役所）に連絡を取って自分たちの考えをまとめていたものがあった。他の人と関わりたいとする意識はコミュニケーションの力を高めていると考える。

(7) その他、メディアに関する知識等

メディアに関する知識と「自然環境」についての意識と知識は増えたと考えられる。特に、調べたことを通して、自分たちが実践できることに触れていることで自然環境に対する意識や実践力が身に付き始めている。多様なメディアを用いることでたくさんの情報に接することができた。

以上のように、学級担任は、この授業実践を通して、どの児童にも、メディア・リテラシーの向上に関する芽生えを感じているようであるが、学習活動を継続的にこなっていくことの必要性を感じているようである。